

# 松井冬子展

世界中の子と友達になれる

*Fuyuko MATSUI Becoming Friends with All the Children in the World*

2011年12月17日(土)～2012年3月18日(日)

この展覧会は、松井冬子の、公立美術館初の大規模な個展です。

松井冬子は、古典絵画の技法に表現上の魅力と可能性を見いだして東京藝術大学、同大学院で日本画を学びました。《世界中の子と友達になれる》は、学部の卒業制作です。松井冬子は、楽観的に何でもできると感じた幼少時、世界中の子と友達になれるという考えが、絶対可能だと確信した瞬間を記憶しているといいます。けれども、その後現実には、世界中の子と友達になれるという考えが妄想であることを突きつけるのです。

この作品では、少女、畸形化した藤、黒い房状のスズメバチ、赤児のいない揺り籠などを描いて狂気、女性性や墮胎などを暗示しながら、他者からの攻撃を受け続けた状態や自分自身を見失った心理状態が、一瞬にして狂気へと変わる緊張状態を描こうとしています。この作品は、やがて芸術表現が呼び起こす精神的肉体的な「痛み」を始点として、恐怖、狂気、ナルシズム、性、生と死などをテーマに挑発的とも言える作品を制作する松井冬子の原点と言えます。そうした観点から、「世界中の子と友達になれる」を本展の副題としました。松井冬子の場合、人間の負の在り様や死、目を背けたくなるような臓物のモチーフなどを描きながら、それは悪戯な露悪趣味とは真逆にあって、真実から目をそらさず、苦悩や懊悩から逃げ出さない、真摯な生の力強さの訴えに結びついています。だからこそ今、松井冬子の作品をじっくりとご覧いただきたいのです。

本展は、代表的な本画、試行錯誤の軌跡を伝える下絵、厳密に描き込んだデッサンなど約80余点で構成されます。2010年にフランスで発表し、日本においては初公開となる《喪の寄り道》や、本展に向けた新作は、今後の創作活動の方向性を示唆するでしょう。また、本展会期中、松井冬子が初めてアートディレクションを手掛ける映像作品を公開予定です(2012年3月)。松井冬子の美意識が、映像という新たな表現領域においてどう発揮されるかも、是非ご期待ください。



《世界中の子と友達になれる》 2002年(平成14) 絹本着色、裏箔、雲肌麻紙 181.8×227.8cm 個人蔵(横浜美術館寄託)



## 松井冬子 (まつい・ふゆこ)



撮影:中川真人

## 略歴

- 1974年 静岡県森町出身  
 2002年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 卒業  
 2004年 「新人選抜レスポワール 松井冬子展」銀座スルガ台画廊、東京  
 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻 修了  
 2005年 「松井冬子展」成山画廊、東京  
 2006年 「MOTアニュアル2006 No Border 「日本画」から/「日本画」へ」東京都現代美術館、東京  
 「日本×画展 しょく発する6人」横浜美術館、神奈川県  
 「第15回奨学生美術展」佐藤美術館、東京 ※佐藤美術館奨学生優秀賞受賞  
 2007年 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻日本画研究領域 修了  
 博士号(美術)取得 ※博士論文「知覚神経としての視覚によって覚醒される痛覚の不可避」  
 東京藝術大学卒業修了制作展 野村美術賞受賞  
 2008年 「松井冬子展」平野美術館、静岡  
 平成20年度 静岡県文化奨励賞受賞  
 2009年 「2009年仁川国際女性アーティストビエンナーレ」仁川、韓国  
 「医学と芸術展:生命と愛の未来を探る」森美術館、東京  
 2010年 「小泉八雲生誕160年記念・来日120年記念展 へるんさんの秘めごと」熊本市現代美術館、熊本  
 「松井冬子」ギャラリー・ダエン、パリ、フランス  
 2011年 「松井冬子 東日本大震災 被災地支援オークション松井冬子」成山画廊、東京  
 「松井冬子展—世界中の子と友達になれる」横浜美術館、神奈川県

## — おもな出品作 ※作品に寄せた言葉は、松井冬子氏自身による作品解説(抄)



## 《世界中の子と友達になれる》

この絵の題名とした「世界中の子と友達になれる」という絶対的に実現不可能な狂気のアイデアを私は幼児期に確信したことを記憶している。誇大妄想に等しい全能的思い込みではあるが、今でも私の心的窮状を鎮める呪文、琴線を震わす言葉としてあてはめた。

2002年(平成14) 絹本着色、裏箔、雲肌麻紙 181.8×227.8cm 個人蔵(横浜美術館寄託) ※学部卒業制作

やもうしょう  
《夜盲症》

2005年(平成17) 絹本着色、軸  
 138.4×49.5cm  
 成山画廊蔵





しょうそう  
《浄相の持続》

「私はこんなに立派な子宮をもっている」という攻撃的な態度は、自傷行為の原因となる防衛目的から発現した破壊的衝動である。私はこの女に対し自己投影し同一視している。また彼女の周りに咲く花々も、彼女に同調するように切断し、雌しべをみせびらかしている。私はこの作品に共感し、同調しうるであろう女性達に向けて作品を制作した。同調に関する優れた能力は、卵をつくる、分身をつくる、という子宮を持つ者の強い特権であるからだ。

2004年(平成16) 絹本着色、軸 29.5×79.3cm 財団法人平野美術館寄託



もうけんず  
《盲犬図》

2005年(平成17) 絹本着色  
73.2×43.5cm 花房香氏蔵



いんこく しし  
《陰刻された四肢の祭壇》

女は理性をばらばらにした自己をもぎ取り、幸福である。誇大な空想と自己価値を失う不安から距離をとるが、自己の肉体と外部環境の境界が不明瞭になり、自己の姿を外界に投影する。自尊心と服従の鏡映機能が無意識に現れる。

2007年(平成19) 絹本着色 222.0×172.0cm 東京藝術大学蔵  
※博士後期課程修了制作 東京藝術大学卒業修了制作展 野村美術賞受賞



しゅうきょく いたい さんざい  
《終極にある異体の散在》

他者の小さな断片が個人の行動の中に食い込んでいる。外界との幸福な関係を保ちながら、女は無数に彼女から排出される異質の断片を永久にほじくり続けている。また強迫的な罪責感、罪悪感、欺く、欺かれる、暴く、暴かれる、といった自分自身の全行動から恐怖を剥奪する欲求を表している。

2007年(平成19) 絹本着色、軸 124.3×97.4cm 個人蔵



## 《喪の寄り道》

2010年(平成22) 絹本着色、軸  
180.2×164.0cm 個人蔵 ※日本初公開

### — 関連イベント

#### 1. クロス・トーク:松任谷由実氏×松井冬子氏

ユミンさんと松井冬子さんのとっておきの対談です。

日時:12月18日(日) 19時~20時

定員:200名、要事前申込み(往復はがき)、抽選、入場無料

##### 応募方法

往復はがきの往信面に、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を、返信面に、郵便番号、住所、氏名を明記のうえ、下記までお申込みください。

お申込みご本人1名様のみ有効。11月19日(土)必着締切。

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館 松井冬子展担当

#### 2. 記念講演会

「不浄の肉体をもつ聖女たち—小野小町から松井冬子へ—」

なぜ美女の死体は描かれるのか?

中世「九相図」の伝統から松井冬子の世界を照射します。

講師:山本聡美氏(共立女子大学文芸学部准教授)

日時:1月7日(土) 15時~16時30分(開場:14時30分)

#### 3. アーティスト・トーク

「知覚神経としての視覚によって覚醒される痛覚の不可避」

松井冬子さんが東京藝術大学の博士論文を講演形式で紹介いたします。

日時:2月11日(土・祝日) 15時~16時(開場:14時30分)

#### 4. ギャラリー・トーク(本展担当学芸員)

日時:12月23日(金・祝日)/1月20日(金)/2月17日(金)/3月16日(金)

※いずれも14時~14時30分。当日有効の観覧券が必要です。

#### 5. 横浜美術館塾「ラジオ美術館」

松井冬子氏×早川洋平氏(プロインタビュアー/KIQTAS)

アートに親しむWEBインタビュー番組の公開収録です。

日時:1月14日(土) 18時~19時30分

定員:200名、参加無料

#### 6. 横浜美術館塾「アートクルーズ」

閉館後に担当学芸員の解説を聞きながらご鑑賞いただきます。

日時:1月11日(水)/1月25日(水)/2月8日(水)いずれも19時~20時45分

定員:各回40名、受講料4,000円(鑑賞券含む)

※2・3の会場は横浜美術館レクチャーホール(先着240名、入場無料)。

※5・6は要事前申込み(Eメール)、先着順。受付開始は10月25日(火)です。

横浜美術館塾のお申込み・お問合せ yma-jyuku@yaf.or.jp 045-221-0304

### — 基本情報

【会期】2011年12月17日(土)~2012年3月18日(日)

【会場】横浜美術館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317 <http://www.yaf.or.jp/yma/>

【開館時間】10:00~18:00(入館は閉館の30分前まで)

【休館日】毎週木曜日、12月29日(木)~1月3日(火)

【観覧料】一般 1,100(1,000)円 大学・高校生 700(600)円 中学生 400(300)円 小学生以下無料

※毎週土曜日は高校生以下無料(要学生証・生徒手帳)。

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料。

※( )内は前売、ならびに有料20名様以上の団体料金(団体チケットは会場のみで販売、要事前予約)。

※チケットは、横浜美術館(前売はミュージアムショップ)、セブン-イレブン店内のマルチコピー機「セブンチケット」(セブンコード:013-452)にてお買い求めいただけます。

(前売は12月16日[金]まで販売)

※本展チケットで観覧日当日に限り横浜美術館コレクション展もご覧いただけます。

※リピーター割引:観覧済みの当館企画展(ヨコハマトリエンナーレ2011を含む)の有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます。

(ご観覧された展覧会の最終日から1年間、1名様1回限り有効)

【主催】横浜美術館[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体] 【後援】横浜市/読売新聞東京本社

【協賛】日本ロレックス株式会社

【協力】成山画廊/みなとみらい線/横浜ケーブルビジョン/FMヨコハマ/首都高速道路株式会社 【助成】NOAMURA 野村財団

プレスリリースお問い合わせ

横浜美術館 広報担当(福山・齋藤・慶野)

TEL:045-221-0319 FAX:045-221-0317

E-mail: pr-yma@yaf.or.jp